

特別養護老人ホーム 浜松十字の園 2017 年度事業報告書

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

近隣教会の牧師や教会員、引退牧師の協力により、月曜日から金曜日まで毎朝礼拝を行い、語られる聖書の言葉を通して、理念の土台であるキリスト教の精神に触れ、理念の実践に結びつけた。

B. 運営方針について

1. ケアの質を高め、ご利用者が安心して暮らすことの支援をします。

- ・認知症ケア委員会を創設し、ユニット会議の中で勉強会を開催し、認知症ケアの理解を深めた。
- ・「介護事故 防止・対応マニュアル」の不審者対応手順を現実の場面を想定して見直し運用している。
- ・毎月 1 回の設備点検により不良箇所を早期改修し、安全な環境を整えた。
- ・静岡県社会福祉士会による第三者評価を受審し長所・短所が評価された。長所を伸ばし、短所を改善する取組を 2018 年度に行う。

2. 職員同士が共に育つ力を身につけます。

- ・課長とリーダーを増員したことにより、部署ごとで考え実行していく意識が高まった。
- ・施設内研修を年間計画に基づき実施できたが、個別研修計画の整備や習熟度の把握ができていないため 2018 年度に整備する。
- ・ストレスチェックの実施結果からアンガーマネジメント研修を開催すると共に、外部専門機関のカウンセリングによるメンタルサポートを継続し、働きやすい環境作りに努めた。

3. ユニット棟開設に向けて経営体力の強化に努めます。

- ・ユニット棟開設計画は資金計画に困難さが生じたため一旦保留とし、既存建築物のライフライン修繕を優先して行う計画を進め、国土交通省による省エネ化補助金事業の採択を受け、2018 年度前半に空調・照明設備の更新と建物の断熱対策を実施する。
- ・施設改修の原資となる居住費収入を運営費に充てた経営体質になっているため、サービスの質を維持しつつ職員配置を徐々に縮小する取組を行ってきたが、給湯配管破損による修繕費と光熱費の増大により、体質改善は十分にできなかった。2018 年度はリフト浴槽導入などにより効率的に業務を遂行できる環境も整えながら、体質改善に努めていく。

II. 事業計画の達成状況

A. 各事業・職場の目標達成状況・実績

1 介護老人福祉施設

- ・介護 1 F：接遇マナー改善により利用者の立場に立ったサービス提供に取り組んだが具体的な成果は出しづらかった。／ユニットリーダーを複数にしたことによりリーダーが中心になって課題解決していく意識が高まった。／利用者の要望に沿った行事を積極的に企画運営できた。
- ・介護 2 F：ターミナルケア開始時にはリーダー・担当者を中心に全てのターミナルケア開始時にカンファレンスを行い、新たに振り返りも行う事ができた。
- ・看護：各フロア担当看護師が中心になり介護職員・相談員・健康サポート課が協働し利用者の課題に取り組み、早期対応早期解決を意識した対応ができた。／定期的な情報誌を発行しニーズに応じた情報の発信ができた。／褥瘡を発生させない対応を介護職員と協働して実施できた。

- ・リハビリテーション：常勤職員が退職し、非常勤職員が育児休業に入ったため、クリストファー大学講師の協力を得て、最小限の機能訓練を継続した。施設間異動により 2018 年度から常勤職員が配置されたため、他職種協働でリハビリテーションを行えるチーム作りに努めていく。
- ・生活相談員：介護支援専門員と連携して利用者の希望を叶える活動計画を立て、実施できた。／退所から入所までの空室期間を 10 日以内とする取組を行ったが、2016 年度平均実績 11.3 日に対し 11.7 日だった。入所予定者の体調不良や逝去、退所者の増加により入所予定者が足りなくなることもあり、優先入所判定会で審議を受ける対象者を増やすことを 2018 年度に取り組む。
- ・介護支援専門員：入所前に行った情報収集を基に多職種連携で生活環境を整えることができ、入所後も戸惑うことなく暮らされる方や活動性が上がり ADL が向上された方がいた。生活相談員と連携してご利用者の外出支援を行うことができ、施設の中とは違う生き生きとした表情を見ることができた。
- ・食事：経口維持加算の算定プロセスを通し、より安全な食事時間を過ごせるようになった。／委託業者の協力を得て、毎月何らかの行事食を提供し、利用者から好評を得た。
- ・総務：光熱費削減に取り組んだが気温の変化が大きく電力デマンド値を増加させてしまった。給湯配管破損によりガス代が増大したが設備改修後は前年度よりも使用量を大きく削減できた。

2 短期入所

- ・相談業務担当を決め、ケアマネなど外部との連絡事項がスムーズに行えるようになり、稼働率の向上につながった。／利用者が自宅での生活を継続できるようリハビリやレクを通して ADL の保持、事故の防止に努めたが十分な実施ができなかった。／特養との連携により長期利用者の確保に努めたが 80% を下回る時期が続いた。しかし 2 月以降は 85% 前後を維持し、目標とした年間稼働率 85.0% には達しなかったが 80.2% となった。

3 通所介護

- ・リハビリメニューを利用者が自発的に選択できるようホワイトボードを作成し、常時 5 種類程度のメニューを用意できた。より自発性を持てるよう継続して取り組んでいく。／3 ヶ月に 1 回のペースで、日常提供している作業リハビリの意味を作業療法士が伝える勉強会を実施した。／6～9 月は稼働率 80% 台を維持したが、1 月にサービス提供中にインフルエンザ発症者があり利用者数が一桁の状態が 1 週間続き稼働率が激減したこともあり、年間目標稼働率 85.0% に対し 75.1% の結果になった。

4 診療所

- ・医療機関との医師派遣契約を結び医師が増えたことにより、急変時の対応が速やかに行える体制が整った。／レセプト業務を施設職員が担当することになったが、トラブルもなく移行作業ができた。

B. 利用実績

(職員数は2017年度末月現在の数とする)

	特 養	短 期	通 所	事業活動収入計 職員数合計
利用定員	120 人	20 人	22 人	—
利用者延数	43,064 人	5,854 人	5,122 人	—
1 日平均利用者数	118.0 人	16.0 人	16.5 人	—
稼働率、稼働指数	98.3%	80.2%	75.1%	—
稼働日数	365 日	365 日	310 日	—
単価(一人一日当たり)	11,058 円	10,814 円	9,047 円	—
介護保険事業収入(千円)	476,184 千円	63,304 千円	46,336 千円	593,426 千円
職員数(常勤換算)	67.8 人	10.1 人	8.6 人	86.5 人

C. 資金収支、財務状況

1 資金収支予算達成状況

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	609,263	593,426	568,714	570,249	40,549	23,177
施設整備による収支	680	680	4,140	4,312	△3,460	△3,632
その他活動による収支	4,570	5,584	41,500	19,288	△36,930	△13,704
当期資金収支					159	5,840

(当初予算との増減差額が大きい要因)

- ・収入について：在宅は入所施設が増えたことにより、短期は目標稼働率 85.0%に対して 80.2%、通所は 85.0%に対して 75.1%となり収入は 986 万円減少した。建築計画が保留になったため寄付金は 394 万円減少した。
- ・支出について：給湯配管破損によるガス使用量の増大により水道光熱費が 266 万円増加した。収入の減少により施設整備積立 1,850 万円減、本部拠点への繰入 371 万円減となった。

2 設備投資及び借入金の状況 (千円単位)

- ・固定資産取得：電気給湯器 2,469 ・積立、取崩：施設整備積立 500、施設整備積立取崩 0

3 借入金及び借入金償還の状況 (千円単位)

- ・元金償還 1,500、利子 33、元金補給 680、利子補給 3、年度末残高 1,500 ・新規借入金：なし

Ⅲ. 対処すべき課題

1 利用者が安心して暮らすことの支援

(自立支援の促進、ニーズへの対応、安全快適な生活環境の整備)

2 職員同士が共に育つ力を身につける

(職場のチーム力向上、自発的な労働環境改善、職員育成の充実)

3 地域ニーズに応えるための経営体力強化

(西部地区3施設の一体化推進、十字の園の情報発信と地域ニーズへの対応、居住費収入を運営費に充てない体制作り、建替計画の見直し、医療体制の整備)

1.施設利用の状況

区分		2017年	2016年
入居者数	男	30人	30人
	女	89人	87人
	計	119人	117人
利用日数	男	10,681日	10,544日
	女	32,383日	32,082日
	計	43,064日	42,626日
平均入居期間	男	3.02年	3.00年
	女	3.09年	3.09年
	計	3.08年	3.07年
最長入居期間	男	21.00年	20.00年
	女	19.10年	18.10年

区分		2017年	2016年
平均年齢	男	89歳	80歳
	女	88歳	88歳
	計	86歳	86歳
最高年齢	男	96歳	100歳
	女	103歳	107歳
最低年齢	男	65歳	65歳
	女	65歳	64歳
出身地域	圏内	117人	115人
	圏外	2人	0人
	県外	0人	2人
平均介護度		3.67	3.69

区分		2017年	2016年
入居者数	男	12人	11人
	女	22人	19人
	計	34人	30人
退居者数	男	12人	10人
	女	20人	21人
	計	32人	31人
入院者数	男	9人	12人
	女	17人	10人
	計	26人	22人
入院日数	男	111日	171日
	女	278日	195日
	計	389日	366日

入居者の介護度区分

区分	2017年	2016年
自立	0人	0人
要支援	0人	0人
要介護度1	3人	5人
要介護度2	12人	10人
要介護度3	38人	35人
要介護度4	40人	34人
要介護度5	26人	33人

入居前住居

区分	2017年	2016年
自宅	24人	19人
病院	4人	4人
老健施設	5人	6人
療養型	0人	0人
グループホーム	1人	0人
他施設	0人	1人

退居者内訳

区分	2017年	2016年
死亡	30人	22人
帰宅	0人	0人
病院へ転出	2人	9人
他施設へ転出	0人	0人
その他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2017年度	2016年度
短期入所生活介護事業	延人数	479	474	465	481	477	508	498	514	491	456	488	523	5,854人	5,177人
	一日平均	16.0	15.3	15.5	15.5	15.4	16.9	16.1	17.1	15.8	14.7	17.4	16.9	16.0人	14.2人
	営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	365日
通所介護事業(一般型)	延人数	394	457	466	445	477	463	452	427	421	287	372	461	5,122人	5,519人
	一日平均	15.8	16.9	17.9	17.1	17.7	17.8	17.4	16.4	16.2	12.0	15.5	17.1	16.5人	17.8人
	営業日数	25	27	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310日	310日

V. 職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減							
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤						
	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務						
施設長	1	0	0	0	1													
事務員	4	0	1	0	1	1	3			1	1		0	0				
相談員	2	1	0	0	1		1	1		1			0	0				
介護支援専門員	1	1	0	0			1	1			1	0	-1					
直接処遇職員	生活支援員	0	0	0	0								0	0				
	介護職員	47	0	11	0	20	1	27	10	8	2	3	3	5	-1			
	看護職員	6	0	2	0	3		3	2		1	1		-1	1			
	機能訓練職員	0	0	6	0		5		1			1		-1	0			
栄養士	1	0	1	0			1	1					0	0				
調理師・員	0	0	0	0									0	0				
医師	1	0	3	0	1	3				1			0	1				
その他	0	0	20	0		2		18				1	0	-1				
小計	63	2	44	0	27	0	12	0	36	2	32	0	10	4	7	5	3	-1
在宅事業	通所(一般)	5	0	7	0	2	1	3	6	2	1	2	1	0	0			
	小計	5	0	7	0	2	0	1	0	3	0	6	0	2	1	2	1	0
合計	68	2	51	0	29	0	13	0	39	2	38	0	12	5	9	6	3	-1

VI. 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
役員	2件	50,000円
職員	22件	325,000円
業者	0件	0円
入居者	4件	365,000円
入居者家族	12件	221,000円
遺族	5件	720,000円
在宅一般	1件	20,000円
合計	87件	2,058,701円

その他寄付金収入

区分	件数	寄付金額
寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

* 現員は2018年3月31日現在。

就退職は2017年度内増減。